

新内科学大系

感染症 Ia

1979年7月2日



新内科学大系

52A

感染症 Ia

國 府 大 学 医 学 部
土 木 大 学 医 学 部
東 北 大 学 医 学 部
東 大 学 医 学 部
山 大 学 医 学 部
山 大 学 医 学 部
山 大 学 医 学 部

東 大 名 誉 教 授
浜 松 医 大 学 長
吉 利
自 治 医 大 学 長
中 尾 喜
東 北 大 名 誉 教 授
山 形 敏
前 慶 大 教 授
三 辺 謙
九 大 教 授
黑 岩 義 五 郎
東 大 教 授
織 田 敏 次
阪 大 教 授
山 村 雄 一

<監 修>



中山書店

1976年5月27日 第1刷発行

検印省略

新内科学大系 (全60巻)
Handbook of Internal Medicine
(Shin-Naikagaku Taikēi)

第52巻 A 《感染症Ⅰa》 ©

監修

吉 利 和
中 尾 喜
山 形 敏
三 辺 五
黒 岩 義
織 田 敏
山 村 雄
郎 次
平

発行

中 山 三 郎 平
山 書 店

発行所

株式会社

〔製作〕 株式会社 中山・新内科学大系刊行部

東京都文京区本郷3の14の10(泰生ビル)
TEL. 813-1101 (代表) 郵便番号 113

〔販売〕 東京都文京区本郷3の6の12 (太平ビル)
TEL. 815-3511 (代表) 郵便番号 113

〔取引〕 東京都千代田区神保町2の24
TEL. 263-5511 振替東京 196565 郵便番号 101

印刷/凸版印刷株式会社 製本/松岳社青木製本所
用紙/三菱製紙株式会社 表紙/ダイニツク株式会社

3347-213501-5612

内和大学系



理想全集

東女医大教授 鎮目和
山形大教授 石川
東大講師 鈴木秀
東大助教授 和田
慶大助教授 土屋雅
愛媛大教授 国府達
郎

夫 誠 郎 攻 春 郎

〈編集〉

〈巻頭〉



中山書庫

尾 前 照 雄	九大教授 阿 部 裕	阪大教授 高 安 正 夫	国立京都病院院長 脇 坂 行 一	滋賀医科大学長 山 田 弘 三	京大名誉教授 中部労災病院院長 真 下 啓 明	東大教授 堀 内 淑 彦	東大教授 豊 倉 康 夫	東大教授 小 坂 樹 徳	東大教授 村 尾 覚	東大教授 滝 島 任	東北大教授 中 村 隆	山形大教授 白 石 忠 雄	北大教授 村 尾 誠
------------------	---------------------	--------------------------	------------------------------	-----------------------------	--	--------------------------	--------------------------	--------------------------	---------------------	---------------------	----------------------	---------------------------	---------------------

〈監修協力〉

和武雄
札幌医科大学教授

上田泰三
慈恵医科大学教授

日比野進
名古屋大学名誉教授
国立名古屋病院院長

増田正典
京府医科大学教授

武内重五郎
東京医科大学教授

木下康民
新大教授

小坂淳夫
岡大学長

高岡善人
長大教授

徳臣晴比古
熊大教授

〈顧問〉

恩 榮 証 書

學士院會員 東北大名 醫學教授 黒川利雄	學士院會員 東大名 醫學教授 沖中重雄	關東學院病院院長 田坂定孝	名大名 醫學教授 名城病院長 青山進午	京大名 醫學教授 國立京都病院院長 三宅儀	阪大名 醫學教授 國立大阪病院長 吉田常雄	九大 醫學教授 宮崎醫大學長 勝木司馬之助
-------------------------------	------------------------------	------------------	------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

<名譽顧問>

大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士
大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士	大谷 士

第52卷A

感染症 Ia

著者

一 慶大教授	牛 場 大 蔵	東大教授	大 谷 杉 士
独協医大教授	石 崎 達	東北大教授	石 田 名 香 雄
一 東北大講師	梅 内 拓 生	慶大微生物	杉 山 太 規 子
東海大教授	佐々木正五	京大教授	伊 藤 洋 平
九大教授	合 屋 長 英	慶大教授	斎 藤 和 久
日医大教授	乗 木 秀 夫	都立広尾病院 院長	横 田 万 之 助
東大教授	真 下 啓 明	都立豊島病院 院長	平 石 浩
慶大教授	長谷川弥人	慶大講師	富 岡 一
慶大助教授	細 田 泰 弘	札医大教授	中 尾 亨
九大教授	加 地 正 郎	長大教授	松 本 慶 蔵
済生会中央病院 医長	大 貫 寿 衛	県西部浜松医療 センター院長	小 張 一 峰
名古屋保健 衛生大教授	名 出 頼 男	国立東二病院 医長	伊 藤 宗 元

(執筆順)

目 次

I. 総 論

A. 感染症の概念(感染-発症-免疫).....牛場大蔵... 3

1. 感染症の歴史的発展..... 3

a. 疫病(伝染病)から感染症へ..... 3

b. 感染症の変遷..... 4

2. 感染・発症の理論的考察..... 5

a. 感染と発症の定義..... 5

b. 宿主寄生体関係..... 6

c. 感染症の分類..... 7

3. 感受性と病原性..... 8

a. 菌対動物の関係..... 8

b. 感受性を支配する因子..... 9

c. 病原性の概念..... 10

d. 病原性を規定する属性..... 11

e. 病原性を支配する因子..... 12

4. 免 疫..... 13

a. 免疫の分類——自然免疫と獲得免疫..... 13

b. 液体免疫と細胞免疫..... 14

c. 免疫処置..... 15

B. 感染とアレルギー.....大谷杉士... 17

1. 過 敏 症..... 17

a. P-K反応型過敏症..... 17

b. Bordet反応型過敏症..... 19

c. Arthus反応型過敏症..... 21

d. ツベルクリン反応型過敏症..... 22

2. 免疫系組織の感染..... 23

付. 寄生虫アレルギー.....石崎 達... 25

1. 寄生現象による宿主の免疫反応..... 25

a. 皮膚反応	25
b. その他の免疫反応	26
2. 臨床症状のアレルギー的解釈	27
a. 回虫アレルギー	27
b. 鉤虫アレルギー	27
c. 糸状虫アレルギー	28
d. アニサキスアレルギー	29
e. 顎口虫アレルギー	30
f. 住血吸虫アレルギー	30
g. 肺吸虫アレルギー	31
h. トキソプラズマアレルギー	31
C. いわゆる slow virus 感染症と自己免疫	石田名香雄, 梅内拓生 34
1. slow virus 感染症	34
2. いわゆる slow onset disease	34
a. マウスの LDH ウイルス感染症	34
b. ミングのアリューション病	36
c. ウマの伝染性貧血	38
d. ヒツジの maedi と visna	41
e. マウスの LCM ウイルス感染症	41
f. homology という考えかた	42
3. 狭義の slow virus 感染症	43
a. kuru	43
b. scrapie	43
c. 海綿様変性脳症	46
d. slow onset disease と slow virus 感染症	46
4. 自己免疫	47
a. 自己免疫とは	47
b. 免疫担当細胞 (T-cell と B-cell)	48
c. 抗体産生における T-cell と B-cell の協同作用	48
d. 免疫の調節機構	48
e. ウイルス感染と自己免疫	49
f. ウイルス感染による自己免疫の発生機構	50
g. ウイルスのキャリア効果	51
h. ウイルス感染による T-cell の機能変化	51

D. マイコプラズマ感染症および L-form	
と PPLO	杉山太規子, 佐々木正五 54
1. マイコプラズマの生態	54
a. マイコプラズマとは	54
b. L-formとは	56
c. ヒトと動物のマイコプラズマ	57
2. マイコプラズマ感染症の診断	59
a. 菌分離の診断学的意義	59
b. 分離方法	59
c. 血清抗体価測定法とその診断学的意義	61
3. マイコプラズマの感染と疫学	62
a. マイコプラズマの感染様式	62
b. マイコプラズマ感染症の疫学的特徴	63
c. 病原性決定の条件	63
d. <i>M. pneumoniae</i> 感染症	63
e. <i>M. hominis</i> および T-マイコプラズマ感染症	66
f. <i>M. salivarium</i> , <i>M. orale</i> type 1, 2, 3, <i>M. fermentans</i> と flora	67
g. マイコプラズマの腫瘍原性——白血病その他	68
4. マイコプラズマの免疫学と予防	69
a. マイコプラズマ肺炎の病理像と抗体 response	69
b. 免疫化学	70
c. 予防——ワクチン	70
5. L-form 感染症	72
a. L-form の種類と関連疾患	72
b. L-form の病原性	72
c. L-form の産生および生残を促す因子	73
d. L-form の検出とその診断学的意義についての問題点	73
E. 癌(惹起性)ウイルス	伊藤洋平 83
1. 癌ウイルスの種類とその分布	83
2. 癌ウイルスと宿主細胞と相互反応	85
3. 次ウイルスレベルでの発癌の考察	86
4. 癌ウイルスの常在性	87
5. 試験管内における発癌	89
6. ヒト癌とウイルス	90

7. EB ウイルスとヒト癌	91
8. RNA 型癌ウイルスの新しい問題	94
F. 原発性免疫不全症と感染	合屋長英 97
1. 体液性免疫不全——B-リンパ球欠損	99
a. 免疫グロブリンが全般的に欠乏するもの	99
b. 一部の免疫グロブリンが欠乏するもの	100
c. 免疫グロブリンが正常ないし高値の免疫不全症	101
2. 細胞伝達性免疫不全——T-リンパ球欠損	101
a. 胸腺低形成 (DiGeorge 症候群)	101
b. 胸腺異形成 (Nezelof 型免疫不全症)	101
c. 慢性皮膚粘膜カンジダ症	102
3. 複合免疫不全症——T および B-リンパ球欠損	102
a. 重症複合免疫不全症	102
b. ataxia telangiectasia における免疫不全	102
c. 血小板減少を伴う免疫不全症 (Wiskott-Aldrich 症候群)	103
d. 免疫記憶喪失症	103
G. 感染症を中心とした生体反応の新しい統一の見解	斎藤和久 105
1. 体液性防御機構	106
a. 体液および組織中の抗微生物物質	106
b. 免疫殺菌および免疫溶菌	107
2. 細胞性防御機構	109
a. 食細胞の走化性	109
b. 食細胞の貪食過程	110
c. 貪食後の問題	112
3. 宿主の遺伝学的問題	115
H. 国内感染症と持込み感染症	乗木秀夫 123
付. 世界と日本の感染症	乗木秀夫 126
II. 症 候 論	
A. 総 論	横田万之助 141
1. 感染症の社会的条件	141
a. 感染症と伝染病	141
b. 感染症と医師と法律と	142
c. 感染症の診断は予防の第一歩	143

d. 感染症の診断は臨床からの疑診にはじまる	143
e. 感染症診断の眼目	146
2. 感染症の初期症候群の意義	148
a. 感染と発症の謎——一つの比喻	148
b. 潜伏期——前駆症状	149
c. 発症——その“めやす”は?	152
d. 発展に伴う症候群について——いわゆる起始症候群	156
3. 感染症の進展と経過	162
a. 現象的にみた感染症の進展	163
b. 感染症の臨床からみた2,3の視点	169
B. 発熱	真下啓明 185
1. 発熱の定義	185
2. 感染性発熱の機序	185
3. 各種感染症の熱型	187
4. 感染性発熱に伴う諸症状との関連	188
5. 感染性発熱の治療	190
C. 発疹	平石 浩 191
1. 発疹に関する一般的事項	191
a. 発疹の形態	191
b. 発疹の成因	191
c. 発疹を生ずる急性感染症	193
2. 発疹の出現頻度	194
3. 発疹と発熱	194
4. 発疹の出現部位と出現の順序	195
5. 発疹の形態, 排列と経時的変化	196
a. 斑丘疹性の発疹	197
b. 水疱性の発疹	198
6. 発疹に伴う特徴的所見	199
D. 敗血症	201
1. 定義, 概念とその歴史的検討	長谷川弥人, 富岡 一 201
2. 分類	205
3. 病因論	206
a. 病原微生物	206
b. 基礎疾患と発症誘発条件	208

4. 病理組織	細田泰弘	211
5. 疫学的事項, 発生率	長谷川弥人, 富岡 一	213
6. 臨床症状		213
a. 症 状		213
b. 検査所見		214
c. 病 型		215
7. 診 断		215
8. 合併症		217
a. ショック		217
b. 播種性血管内凝固症		220
c. その他		220
9. 予 後		220
a. 原因菌による予後		220
b. 生体側の条件		221
c. ショックと致死率		224
d. 治療と予後		225
10. 治 療		226
a. 化学療法と生体側の条件		226
b. 抗生物質の選択とその使用法		227
c. 化学療法の具体的方式		230
d. 補助療法		235
E. 髄膜炎症状	中尾 亨	239
1. 年齢による臨床症状の差異		239
2. 病原による臨床症状の差異		241
a. 化膿性髄膜炎		241
b. 結核性髄膜炎		243
c. 無菌性髄膜炎		244
3. 髄 液		246
a. 化膿性髄膜炎		247
b. 結核性髄膜炎		247
c. 無菌性髄膜炎		247
4. 髄膜炎症状を呈する髄膜炎以外の疾患		249
a. 急性気道疾患		249
b. 脳膿瘍		249

c. 脳腫瘍	249
d. 鉛脳症	250
F. 口内症状	平石 浩 251
1. 口腔粘膜の異常乾燥	251
2. 舌の異常所見	251
3. 咽頭および口蓋扁桃の異常所見	252
4. 粘膜疹	253
5. 口腔粘膜の出血	255
G. かぜ症候群	加地正郎 257
1. 定 義	257
2. かぜ症候群の症状	257
3. かぜ症候群の所見	257
4. かぜ症候群の臨床的分類	258
a. インフルエンザ	258
b. 普通感冒	258
c. 咽 頭 炎	259
d. 咽頭結膜熱	259
e. クループ	260
f. 気管支炎	260
g. 異型肺炎	260
h. 肺 炎	260
5. かぜ症候群の病因	262
6. 臨床病型と病原との関係	263
7. 細菌の二次感染	266
H. 肺炎症状	松本慶蔵 267
1. 肺炎の症状を規定あるいは影響を及ぼす因子	267
a. 起炎因子(感染因子)	267
b. 抗体の有無	270
c. 年齢, 性別	270
d. 基礎疾患	270
e. 投与薬剤	272
f. 誘因, その他	272
2. 肺炎の症状	273
a. 発 症	273

b. 自覚的症狀	273
c. 他覚的症狀	275
3. 肺炎の合併症による症状	275
a. 髄膜炎, 心内膜炎, 関節炎, 腹膜炎	275
b. 非化膿性合併症	276
c. 心合併症	276
4. 肺炎症状の経過	276
I. 胆嚢-胆道症状	大貫寿衛 279
1. 急性症	279
a. 痛 み	279
b. 嘔気, 嘔吐	280
c. 悪寒, 発熱	281
d. 黄 疸	281
e. 腹部所見	281
f. 圧痛点など	282
g. 合併症	282
2. 慢性症	282
a. 痛 み	283
b. 嘔気, 嘔吐	283
c. 悪寒, 発熱	283
d. 黄 疸	283
e. 腹部所見	284
f. 圧痛点など	284
g. その他	284
J. 下痢症候群	小張一峰 286
1. 便通の機構——腸の生理と関連して	286
2. 感染と下痢	287
a. 感染と腸内菌叢	287
b. 腸内菌叢の乱れと下痢	288
3. 各種感染症にみられる下痢の特徴	289
a. 初期下痢	289
b. サルモネラ腸炎	289
c. 腸炎ビブリオによる腸炎	289
d. 病原大腸菌による腸炎	290

e. コレラ	290
f. 細菌性赤痢	290
g. ブドウ球菌食中毒	291
h. ウイルス腸炎	291
K. 尿路感染症	名出頼男 292
1. 全身症状	292
2. 疼 痛	293
3. 腹腔臓器症状	293
4. 排尿に関連した症状	294
5. 尿量の変化, 尿質の変化	295
6. 尿の異常	295
a. 混濁尿および膿尿	295
b. 血 尿	296
7. 尿道よりの排膿	297
8. 蛋白尿	297
9. 細菌尿	297
L. 出血性素因	伊藤宗元 300
1. 血管の炎症性変化	301
2. 血小板減少と機能異常	302
3. 凝固因子の異常による出血	303
a. 血管内凝固症候群	303
b. その他の凝固因子欠乏	306
4. 線溶亢進現象	306
索 引	309
plate I	(54')
マイコプラズマの平板上のコロニー (図1~5) / マイコプラズマの未成熟細胞 (図6) / マイコプラズマの成熟細胞 (図7) / 肺胞腔のマイコプラズマ (図8) / 肺のマクロファージに取り込まれたマイコプラズマ (図9)	
plate II	(252')
莓舌 (猩紅熱) (図1) / β -溶連菌性咽頭・扁桃炎 (図2, 3) / 痘瘡の咽頭粘膜疹 (図4) / 舌の水痘粘膜疹 (図5) / 帯状疱疹の皮疹および舌の粘膜疹 (図6)	